

マタイによる福音書 3章 1-6 節 「立ち返り続け」

今日与えられた御言葉は、「生きるための使信」です。私たちが生きるためには、今日の説教題にあるように、「立ち帰り続けよ」ということです。

「荒れ野」とは、神にしか望みが持てないところです。そこには、人間が生きていく望みがない、パンもない、水もない、木陰もない、命を枯らすところなのです。しかし、だからこそ、そこで人間の望みがあるとしたら、それは生ける神の憐れみと救いだけだったのです。神だけが救いであるところ、それが荒れ野でした。そして荒れ野とは、ある意味この時代を象徴する言葉であると言えます。神に背き、神から離れて歩んでいる人間の姿そのものが「荒れ野」なのではないでしょうか。華やかな街の中で、全てが「便利」なものに溢れている現代社会で、自分を神のように信じて行動してしまっている、そんな私たち自身の「荒れ野」のただ中に、ヨハネのメッセージを聞くのです。

神から語れと言われたヨハネの言葉は、まさにシンプルです。「悔い改めよ、天の国は近づいた」。旧約聖書に通じていたユダヤ人にとって、この言葉は何度も聞いてきた言葉でありました。改めて、この言葉を見てまいりましょう。まず、「悔い改める」という言葉。ギリシャ語の「メタノイア」の中心的意味は、「心の方向転換」です。神さまが望んでおられることは、「自分を神とする」生き方を改め、いつでもどこでも主なる神を自分の人生の主と認め、主に祈り、主に依り頼みながら生きよ、ということです。悔い改めるためには、中心に何よりもまず神さまがいらっしやなくて、始まりません。「悔い改めよ」と同じ考え方の言葉は、旧約聖書でいくつも出てきます。神を探し求める、神の御前にへりくだるなども、自らの意思で神のほうに向かおうとする人間の態度がうかがえます。しかし最も多く「悔い改める」と使われている動詞は、もともと「道を変える」「引き返す」「立ち戻る」などの概念を表す言葉でした。のちに宗教的な意味が加わり、「悪から遠ざかって神に向かう」ことを意味するようになりました。それは生き方を変えて生活全体を新しい方向に向ける、という悔い改めの本質が表されてきたのです。その「悔い改める」というメッセージは預言者たちが口々に、イスラエルの民にしてきました。私たちは決して完璧な人間ではない。誰にも必ず間違いはある。しかしそのたびに、神さまに立ち返り続けることが必要だ。そのような忠告を、エゼキエルや他の預言者たちも何度もしてきました。そして今やヨハネも伝えている。

私たちが荒れ野で生きるためには、荒れ野の中に希望を捜すのではなく、荒れ野をお造りになった神さまに希望を持つことなのです。そして、それが聖書のいう「悔い改め」なのです。そして一度だけでなく、何度も立ち返り続けなさい、希望を持ち続けなさい、と神さまから私たちへのメッセージです。